

## 令和2年度事業計画

1. 法人事務局
2. ケアハウスやすらぎの里
3. 大庭デイサービスセンター
4. 在宅療養支援センターあんしん
5. 大庭ヘルパーステーション
6. 太陽の里デイサービスセンター
7. グループホーム太陽の里
8. グループホーム本郷
9. グループホーム東出雲
10. 東出雲デイサービスセンター
11. 松江市生活支援ハウス
12. 住宅型有料老人ホーム太陽の里 管理受託事業

# 【法人事務局】

## 経営の立て直し

ここ何年、各事業所の人材確保に苦戦した事とそれにより特に令和元年度は入居者利用者の受入れを制限しなければならない状況に陥りました。その結果、収入が大幅に減り資金繰りが悪化した状況です。

早急に業績回復するために、以下の4点が当面の最優先課題です。

### ①人材確保

ハローワーク等の各機関との情報収集・共有  
現職員からの職員紹介  
元職員への声掛け  
他福祉施設の情報把握（事業所閉鎖等）

### ②高い稼働率

介護業界の経営環境が年々厳しくなっている中、入居部門（ケアハウス、3グループホーム）は満室、通所部門（大庭・太陽・東出雲デイサービス）は定員に到達する利用者を獲得、ヘルパーステーションも常勤・非常勤職のフル稼働、居宅介護支援事業所は各ケアマネの担当ケースをフルに持つ事と未利用者の整理が必須となります。

まず第一優先で法人の基盤であるケアハウスを満室にする事と大庭デイサービスの定員に近い稼働率をあげる事が急務です。その成果を出すために、自事業所だけでなく、常に法人全体の稼働向上に向けて、積極的な営業に取り組む。

### ③徹底した経費削減

様々な支出について、改めて具体的に全支出の見直しを行い、今まで以上に厳しく、また常に法人への費用対効果を第一に考慮し、経費削減に取り組み実践し成果を挙げる。

職員1人1人のコスト意識を高める教育。

### ④予算実績管理の徹底

月次の収支状況等を共有そして問題点を浮彫り明確化し、改善・解決に向けて取り組む。

◆法人事務局◆

月	予 定
4 月	
5 月	監事監査（令和元年度分） 第三者委員会（苦情等報告）
6 月	理事会（令和元年度 事業報告・決算、理事長の職務執行状況他） 定時評議員会（令和年度 事業報告・決算他）
7 月	
8 月	理事会（第一四半期報告他）
9 月	
10 月	
11 月	理事会（上半期報告他）
12 月	
1 月	
2 月	
3 月	理事会（令和 2 年度 補正予算、令和 3 年度 事業計画・予算他） 臨時評議員会（令和 2 年度 補正予算、令和 3 年度 事業計画・予算他）

◆会議・委員会他◆

名 称	内 容
管理職会議	法人事業運営他
事故防止対策委員会	事故・ヒヤリ等の検証・対策
感染症対策委員会	感染症（食中毒）対策
研修企画委員会	介護技術・接遇・事故防止・感染症・倫理等の職員研修企画
身体的拘束適正化検討委員会	身体行動制限・高齢者虐待
給食委員会	嗜好調査、アンケート等
安全衛生委員会	健康診断・職場環境・メンタルヘルス他
敬仁会祭り実行委員会	祭り企画運営
行事企画委員会	新年会・敬老会・餅つき会他企画
創立 20 周年記念式典	

# 【ケアハウスやすらぎの里】

## ①数値目標

- ・年間ベッド稼働率（97%）
- ・現入居者数（2月末現在 43床/ 50床:44名/ 52名）から短期目標を設定  
4月 46床/ 50床（居室稼働率92%）、47名/ 52名（ベッド稼働率90.4%）  
5月 48床/ 50床（居室稼働率96%）、49名/ 52名（ベッド稼働率94.2%）  
6月 50床/ 50床（居室稼働率100%）、52名/ 52名（ベッド稼働率100%）  
以降は、入退居ロスを最小限に抑えると共に、医療機関及び各事業所との情報共有を密に行い、待機者確保に努めます。
- ・年間ベッド稼働率短期目標を達成するため、人材確保に法人全体で取り組みます。入居率 100%時点での配置基準は、介護看護職総数は常勤換算にて最低 16人程度必要。現在、介護看護職員総数は常勤換算にて 15.6人である事を踏まえ、実際に適切な支援を遂行していくために介護職員 3名程度の採用を早期達成目標とします。

## ②サービス内容と生活の質の向上に向けた取り組み。

- ・ご家族様に向けアンケートを実施（令和元年12月実施分）した結果を公表し、必要とされているサービス提供に向けて取り組みます。
- ・入居者様に向けたアンケートを実施し、入居者様が望む生活に目を向け、入居者本位のサービス提供に努めます。
- ・苦情、要望に対し、迅速な対応を行い、入居者様、ご家族様及び地域に対し信用して頂ける施設となるよう努めます。
- ・専門職による生活機能全般に対するリハビリの実施を行えるよう、リハビリ職を始め、看護職、介護職の多職種連携を図ります。

## ③職員の質の向上、離職防止に向けた取り組み

- ・認知症高齢者の増加に伴い、認知症高齢者への対応は必須となっている状況から、ケアハウスでも「認知症実践者研修」受講を進めていく。1名以上の受講目標。また、その他外部研修についても職員からの参加希望に沿えるよう職員充足を図る
- ・既存職員のモチベーションの維持・向上。また、職員の想いをくみ取れるよう面談の実施、及び日頃からコミュニケーションを密に行い、悩みの蓄積を防止し離職防止に努めます。

月	行事	職員勉強会	月	行事	職員勉強会
4月	お花見外出	接遇	10月	敬仁会祭り	排泄支援
5月	遠足	チームワーク	11月	紅葉外出	感染症予防
6月	笹巻作り	食中毒予防	12月	クリスマス会	記録
7月	七夕会	高齢者虐待防止	1月	初詣外出 新年会	リハビリ
8月	夏祭り	事故対策	2月	節分	認知症②
9月	敬老会	認知症①	3月	雛祭会	まとめ

※勉強会について、事業所の課題等が出てきた際には、計画を変更し現状に則した勉強会の実施を行います。

# 【大庭デイサービスセンター】

## ①数値目標

- ・介護：月 598名（1日平均 23名） ・総合事業：休止中
  - ・現登録数1日平均 22名、実利用 18名から目標を設定  
（登録数の8割程度が利用と想定）  
4月～5月で登録数 26名／日（平均実利用 20.8名）  
6月～7月で登録数 27名／日（平均実利用 21.6名）  
8月～9月で登録数 28名／日（平均実利用 22.4名）
- 以降は、毎年12月から2月はショート利用の増加や入院者が増え、稼働が下がるため、冬季にかけて登録数を一人でも多く確保する。また体調管理を行い、病気の早期発見に努め、関係機関との情報共有に努めます。
- 現在、配置基準としては定員 30名に対しサービス提供時間内で介護職 4名必要だが、実際業務を行うためには1日介護職 7名程度必要。また子育て世代が多く、急な休みや土・祝日の出勤者の偏りもあるのが現状であり、介護職員 1名程度の採用を目標とします。

## ②サービスの向上

- ・4月から通所介護のみ実施となり、新規や増回を可能な限り受け入れ、居宅介護支援事業所と共に専門職の情報交換、情報の共有を今まで以上に深めご満足頂けるサービスを提供します。
- ・利用者様及びご家族様へのアンケートを実施し、その結果は公表し、職員全員に周知し、より良いサービスに繋がります。（年1回）
- ・困難事例等にも迅速に対応出来る様、居宅介護支援事業所と連携を取り、専門職で意見を出し合い、ご家族様、利用者様に最善なサービスが提供出来る様に努めます。
- ・施設内研修や外部研修にも積極的に参加し、参加出来なかった職員にも月1度の会議等で伝達し職員全員が同じ技術・知識を習得出来る様に努めスキル向上を目指します。
- ・適宜面談を行い、また職員同志で意見交換が出来る場も設け、協力し、お互いが成長し合える職場環境になる様努めます。

月	行事	職員勉強会
4月	お花見喫茶・お花見外出	薬について
5月	鯉のぼり外出	介護保険改正の要点
6月	お菓子作り	熱中症予防
7月	七夕会	交通安全について
8月	夏祭り	介護技術について
9月	合同運動会・敬老会	事故防止対策について
10月	お菓子作り	虐待・身体拘束
11月	紅葉ドライブ・敬仁会祭り	外部講師に依頼し実施
12月	クリスマス会・餅つき・忘年会	接遇について
1月	初詣外出・新年会	感染症について
2月	節分祭	個人情報について
3月	雛祭り	1年の振り返り

※その他、ボランティアの方々の取り組みも実施。

※季節に合った、作品作りや喫茶（お茶会、お菓子バイキング等）なども適宜実施する。

※職員が月担当を決めて実施。

# 【在宅療養支援センターあんしん】

## ①数値目標

- ・ 要支援、事業対象者 30名／月（29名・・・2月請求件数）
- ・ 要介護 1～2 75名／月（69名・・・2月請求件数）
- ・ 要介護 3～5 30名／月（27名・・・2月請求件数）

## ②事業計画

- ・ 各包括支援センターや医療機関への訪問・電話連絡等を通して、連携強化を図る。
- ・ 連携強化や各職員の質の向上により「相談しやすい事業所」となるよう職員一人一人が自覚し、月3件の新規ケース獲得を目指します。
- ・ 専門職として介護保険に関する相談・援助等を行いながら、利用者様やご家族様の意向に沿った計画を作成し、相談・支援していきます。
- ・ 利用者個々の状況に応じた対応を行い、信頼関係の構築を目指します。
- ・ 毎週、ミーティングを行い、必要事項の周知、対応の統一を図っていきます。
- ・ 大庭地区情報交換会、大庭地区地域ケア会議に参加し、大庭地区が抱えている問題を一緒に考えていきます。
- ・ 各種研修会、他の職能団体との研修に積極的に参加し、ケアマネ個々の質の向上が図れるよう取り組んでいきます。
- ・ 複数の事業所の中から当法人事業所を選択して頂けるよう法人内担当職員への情報提供や助言等を行っていきます。

月	事業所内研修	事業所外専門研修
4月	法令遵守	ブロック連絡会
5月	職業倫理	松江市事例検討会
6月	感染症について リスクマネジメント	ブロック連絡会 気づきの事例検討会
7月	アセスメント事例検討	松江市事例検討会
8月	接遇について 自己評価	ブロック連絡会 気づきの事例検討会
9月	虐待について事例検討	松江市事例検討会
10月	サービス担当者会議	ブロック連絡会 気づきの事例検討会
11月	モニタリング 事例検討	松江市事例検討会 事業間研修
12月	感染症について	ブロック連絡会、大庭地区連絡会議 気づきの事例検討会
1月	認知症ケアマネジメント事例 検討	松江市事例検討会
2月	医療連携	ブロック連絡会 松江市ケアマネ研修会
3月	令和2年度の振り返り（自己評価の振り返りも含む）と3年度に向けての課題検討	松江市事例検討会

※上記研修計画以外に毎週1回、ミーティングを行います。

# 【大庭ヘルパーステーション】

大庭ヘルパーステーションは、利用者様が、可能な限り住み慣れた家で、その有する能力に応じて、安心・安全に自立した日常生活が営むことのできるよう必要な生活支援及び身体支援を行います。

要支援や要介護状態の方、また障がいのある方等の多様なニーズに合わせて訪問介護計画に沿った質の高いサービスの提供に努めていきます。

ご家族様の身体・精神的負担の軽減を図るために、必要な相談援助を行います。

利用者様の人権と安全を確保した介護の提供と個人の尊厳を尊重したサービスの提供をしていきます。

## ①提供するサービス

- ・介護保険法による訪問介護・介護予防・日常生活支援総合事業(訪問型サービス)
- ・障がい者総合支援法による障がい福祉サービス居宅介護

## ②数値目標

- ・要介護利用者（実人数：現在22名 → 2年度 27名）
- ・要支援利用者（実人数：現在22名 → 2年度 26名）
- ・障がい利用者（実人数：現在10名 → 2年度 17名）
  
- ・訪問時間目標  
（常勤A）年間 608／780時間、（常勤B）年間 811／1,040時間  
（常勤C）年間 1,216／1,560時間  
（パートA）年間 1,014／1,300時間、（パートB）年間1,014／1,300時間  
（パートC）年間 647／832時間
- ・サ責件数（サ責1）50件、（サ責2）20件

## ③サービス向上

- ・サービス提供責任者を中心に利用者様の自立支援に向けたサービスの実現に努めます。
- ・毎月一回の定期的なヘルパー会議と必要に応じ単発的な担当者会議を行い、サービスの質の向上に努めます。
- ・サービス内容の変更や利用者様の変化に対して、各事業所や担当ケアマネ、支援員との連絡・連携・報告・相談を徹底し、解決に努めていきます。
- ・部内研修を定期的に行い、社内外研修にも積極的に参加します。
- ・認知症利用者様の尊厳を支えるケアの視点を深めるよう研修に取り組みます。
- ・職員との面談を年2回（6, 12月）実施し、利用者様の相談・報告や今後の仕事方針など何でも話せる機会、場を設けます。必要時には都度対応します。

月	職員勉強会	月	職員勉強会
4月	接遇・職業倫理	10月	接遇
5月	個人情報保護・法令遵守	11月	認知症
6月	身体拘束・虐待防止	12月	障がい者のサービス
7月	感染症予防	1月	記録について
8月	熱中症予防	2月	介護技術
9月	事故防止	3月	緊急時の対応

## 【太陽の里デイサービスセンター】

### ①数値目標

- ・利用者（月延べ 232 名） 1 日平均 9 名
  - ・現利用者数平均は 1 日あたり 6.7 名程度。この状態から目標に近づけるため、短期目標として
    - 4 月 7.0 名／日
    - 5 月 7.5 名／日
    - 6 月 8.0 名／日
- 以降も利用者数の増加に努めるべく、居宅介護支援事業所との連携、通常デイサービスから認知症利用者を受け入れる等の取り組みを強化します。
- ・利用者数目標の 1 日あたり 9 名を受け入れるために介護職員 1 名の採用を目標とします。

### ②サービス向上

- ・認知症専門職としての質の向上を目指します。
- ・施設内の研修、事業所の勉強会や施設外の「認知症介護基礎研修」「認知症介護実践者研修」「認知症介護リーダー研修」へ参加しスキルアップを目指します。

### ③地域交流

- ・地域包括支援センター、居宅介護支援事業所との連携を図ります。
- ・地域密着型サービス事業所との連携強化、近隣の方との交流を深めます。

## 【グループホーム太陽の里】

### ①数値目標

- ・ベッド稼働率（97%）、満床維持に努めます。
- ・入居待機者（常時 5 名確保）※即入居可能者を他部署と共有します。
- ・空室ロスを抑えるためにも適切な人材確保に法人全体で取り組みます。  
配置基準に於いては、常勤の勤務時間を 8 時間として、夜間及び深夜の時間を除き延べ 24 時間分(8 時間×3 人)のサービス提供が必要とされています。加えて夜勤業務を行う従事者も 1 人以上必要です。現在、介護職員は 1 ユニット 7 名であり配置基準は満たしておりますが、事故等による骨折入院等のリスクを最小限に抑え、適切かつ、手厚いサービス提供を行うためにも介護職員 1 名の採用を目標とします。
- ・現在、看護職員の配置が無いことも病気の早期発見に支障をきたす可能性もある事から、看護職員の採用も目標とします。

### ②サービス向上

- ・認知症専門職としての質の向上を目指します。
- ・施設内の研修、事業所の勉強会や施設外の「認知症介護基礎研修」「認知症介護実践者研修」「認知症介護リーダー研修」へ参加しスキルアップを目指します。

### ③地域交流

- ・運営推進会議、太陽の里夏祭りなどの開催を通して、近隣の方との交流を図ります。
- ・太陽の里デイサービスセンター、住宅型有料老人ホーム太陽の里の方々との交流を図ります。



## ◆太陽の里事業所◆

月	行 事	職員勉強会
4月	お花見・花苗植え	理念について・接遇について
5月	お花見・野菜苗植え	認知症ケア（定義・疾患）
6月	笹巻作り	熱中症・食中毒予防対策
7月	七夕会・そうめん流し	認知症の方のご家族への支援方法
8月	夏祭り・夏祭り週間	事故防止対策について
9月	敬老会	防災について・救命講習
10月	芋掘り・お菓子作り・敬仁会祭り	感染症について
11月	紅葉外出	認知症ケア（事例検討）
12月	クリスマス会・忘年会・餅つき	リスクマネジメント
1月	初詣・書初め・新年会	虐待・身体拘束防止について
2月	節分会	認知症ケア（事例検討）
3月	ひな祭り会	介護技術

※デイサービス、グループホームの職員が担当を決めて実施します。

※外部講師に依頼させていただくこともあります。

# 【グループホーム本郷】

## ①数値目標

- ・年間ベッド稼働率（97%）
- ・入院及び入退居による空室（平均16日/年以内）  
ベッド稼働率を100%に近づけるためには、怪我や病気による入院で空室が長期（1ヶ月超）に渡る可能性がある場合、早い段階から新規入居に向けた取り組みを行い、空室ロスや入退居ロスを最小限に抑えます。そのために医療機関と密に連携を図ってまいります。
- ・上記による空室ロスを抑えるため、適切な人材確保に法人全体で取り組みます。配置基準においては、常勤の勤務時間を8時間として、夜間及び深夜の時間を除き延べ24時間分（8時間×3人）のサービス提供が必要とされています。加えて夜勤業務を行う従事者も1人以上必要です。現在、介護職員は各ユニット7名（2ユニット計14名）であり、配置基準は満たしておりますが、事故等による骨折入院等のリスクを最小限に抑え、適切かつ手厚いサービス提供を行うためにも1ユニット各1名の採用を目標とします。また現在、看護職員の配置が無いことも病気の早期発見に支障をきたす可能性もあることから看護職員の採用も目標とします。

## ②サービスの向上

- ・認知症専門職としての知識・技術向上に努めます。
- ・そのために施設内外の研修や勉強会に積極的に参加し、研修報告会や職員主催の勉強会開催等計画し、個々の意識改革を目指します。
- ・入居者様・ご家族様へのアンケートを実施し、サービスの質の向上に反映していただけるよう努力します。

## ③地域交流

- ・季刊誌「本郷かわら版」を年6回発行し、地域に配布、発信していきます。  
「本郷夏祭り」を継続し、地域の方々との交流を深めボランティア等の受け入れを積極的に行い、地域に開かれたグループホーム作りを目指します。
- ・運営推進会議に1人でも多くのご家族様や地域の方にご参加いただき、グループホーム運営推進に反映していただけるよう努めていきます。

月	行 事	職員勉強会
4月	花見外出、花・野菜苗植え	事業所理念
5月	八雲こいのぼり見学	記録について
6月	笹巻作り、足湯外出	熱中症・脱水のリスクマネジメント
7月	本郷夏祭り、天神さん祭り	食中毒について
8月	水郷祭、すいか割り	緊急時対応、心肺蘇生法とAED
9月	敬老会(保育園児との交流会)	防災について
10月	敬仁会祭り	感染症について
11月	ぶどう狩り、紅葉外出	事故防止対策について
12月	クリスマス会&家族会、お餅つき	身体拘束について
1月	初詣、新年会	看取りについて
2月	節分祭	高齢者に多い病気と対策・対応
3月	ひな祭り会、家族会	認知症ケア、事例から考える

※その他の行事として、お誕生日会・散歩・ボランティアの受け入れ等随、随時柔軟に取り入れます。

※その他の研修として、外部研修参加者の報告発表も随時実施します。  
また、その都度に必要と感ずる課題に対し内容を変更し実施します。

# 【グループホーム東出雲】

## ①数値目標

- ・ベッド稼働率（97%）
- ・入院及び入退居による空室（平均16日/年以内）  
ベッド稼働率を100%に近づけるためには、怪我や病気による入院で空室が長期（1ヶ月超）に渡る可能性がある場合、早い段階から新規入居に向けた取り組みを行い、空室ロスや入退居ロスを最小限に抑えます。そのために医療機関と密に連携を図ってまいります。
- ・上記による空室ロスを抑えるためにも適切な人材確保に法人全体で取り組みます。配置基準においては、常勤の勤務時間を8時間として、夜間及び深夜の時間を除き、延べ24時間分（8時間×3人）のサービス提供が必要とされています。加えて夜勤業務を行う従事者も2人以上必要です。現在介護職員はAユニット7名、Bユニット6名（2ユニット計13名）であり配置基準は満たしていますが、事故等による骨折入院等のリスクを最小限に抑え、適切かつ手厚いサービス提供を行うためにも1ユニット各8名の体制を目標とします。

## ②サービス向上

- ・入居者様、ご家族様向けアンケートの実施を行い、サービス向上に繋がります。（アンケート結果の公表）
- ・毎月、現状に則した内容の勉強会の実施をします。（講師職員交代制にて）
- ・目標管理シートを活用し、職員個々が目指すべきグループホームを掲げ目標達成を目指します。

## ③地域交流

- ・運営推進会議を通じて地域交流の推進を図ります。
- ・近隣保育園等との交流を継続実施します。
- ・「いなん祭」を恒例催しとし、地域交流の場を持ちます。
- ・やらこい東出雲（東出雲地区事業所連絡会）を通じて、地域のなごやか寄合への講師派遣依頼を行い、地域貢献をします。

# 【東出雲デイサービスセンター】

## ①数値目標

- ・利用者（月延べ 216 名） 1 日平均 8.3 名
  - ・現利用者数平均は 1 日あたり 5.8 名程度。この状態から目標に近づけるため、短期目標として
    - 4 月 6.0 名／日
    - 5 月 6.5 名／日
    - 6 月 7.0 名／日
- 以降も利用者数の増加に努めるべく、居宅介護支援事業所との連携、通常デイサービスから認知症利用者を受け入れる等の取り組みを強化します。
- ・利用者数目標の 1 日あたり 9 名を受け入れるために介護職員 2 名の採用を目標とします。

## ②サービス向上

- ・困難事例等にも対応出来るよう、毎月の現状に則した勉強会や外部研修等へ参加を行い、職員のスキル向上に努めます。  
（職員個々の知識向上のため、勉強会の講師を交代制とし自己研鑽を図ります）
- ・ご家族様、ご利用者様向けアンケートの実施を行い、サービス向上に繋がります。  
（アンケート結果の公表 ※運営推進会議の活用）
- ・運営推進会議を通じて、利用者ご家族様より意見を頂き、サービスに繋げる事で利用者・家族満足度を向上していきます。

## ◆東出雲事業所◆

月	グループホーム行事	デイサービス行事	職員勉強会
4 月	花見外出	花見外出	事業所理解
5 月	こいのぼり外出	こいのぼり外出	水害対策研修
6 月	笹巻き	笹巻き	食中毒について
7 月	七夕会	七夕会	●認知症症状別対応
8 月	納涼会	季節行事	●認知症症状別対応
9 月	いうなん祭	いうなん祭・敬老会	介護技術について
10 月	保育園交流行事 敬仁会祭り	敬仁会祭り	事故防止について
11 月	紅葉外出	紅葉外出	●認知症症状別対応
12 月	クリスマス会	クリスマス会	感染症について
1 月	お屠蘇会・初詣	初詣外出	●認知症症状別対応
2 月	節分祭	節分祭	●認知症症状別対応
3 月	ひな祭り	ひな祭り	一年間を振り返って

※行事については、入居者様・利用者様との会話の中から想いを聴き出し、計画を柔軟に変更して実施します。

※勉強会についても、事業所の課題等が出てきた際には、計画を変更し現状に則した勉強会の実施を行います。

## 【松江市生活支援ハウス】

### ①関係機関との連携

- ・引き続き入居者様の日常生活機能の変化を観察し、変化を感じた場合は早急に行政担当者及び担当介護支援専門員等に連絡を取り、連携して入居者様が安心して生活できるよう支援します。

### ②サービスの向上

- ・入居者様とのコミュニケーションをしっかりと図り、困ったときなどに安心して、相談できる関係を築いていきます。
- ・外出行事や季節イベントの回数をもう少し増やし、入居者様の生活が孤独な生活にならないよう支援します。

## 【住宅型有料老人ホーム太陽の里 管理受託事業】

### ①関係機関との連携

- ・長期の入居者が多く、年々高齢化しているのご家族様、担当の介護支援専門員及びサービス事業者等と緊密に連携し、諸問題の早期解決を図り、安心して生活できるよう支援します。
- ・稼働率を向上、維持するため入居待機者を確保する。そのために地域包括支援センター及び医療機関相談室等へ定期的に情報を発信し連携を図ります。

### ②サービスの向上

- ・毎日の安否確認時等を活用し、入居者様の状況確認をするとともに困りごとや不安を解消できるよう話を聞くよう努めます。
- ・季節に応じた外出行事及び定期的なイベントを企画する。併せて敬仁会主催のイベントに参加するなどして交流を深め、日々の充実した生活を支援します。